

初の宿泊型イベント無事終了

『この指とまれ 子どもわくわく宿泊自然体験ひろば』と銘打って、環境部会初の宿泊型イベントをしあわせの村テントキャンプ場で10月2日～3日に開催した。「里山の实地学習」「食事作り、バームクーヘン作りから学ぶ食育と異年齢間の共同作業」「天体の話と天体観測」「秋の夜道の虫の音観賞」「ピオトープのザリガニ釣り（駆除）」と、盛りだくさんのメニューを子どもたちと共に楽しんだ2日間となった。

前日まで危ぶまれたお天気模様も、子どもたちの“てるてる坊主”に伝えてくれた「おてんとさん」。秋晴れの幕開けとなっ



てスタートさせた。さあ受け入れ準備も整った

1日目は、村内の自然林に整備されている「自然の道」で、思い思い時間をかけてどんぐりや木の実・木の葉集めをし、2日目の工作材料に備える。



かまきりゲットしたよ～

参加してきた3歳から11歳までの子どもたちも、年齢差を越えてすぐに親しく友だちとなっていた。



どんぐり拾いに出かけよう



子どもたちも手伝ってかまどで炊いた飯ごうごはん おいしい～



中秋の名月となった今回の天体観測。キャンプファイヤーを始めた頃に少しぱらぱらと降ってきたがすぐに止み、雲間から顔を覗かせる満月を、天体観測用望遠鏡で観察できた。講師の井垣 隆夫先生（国際5期）の熱心な天体の話に、質問が飛び交い少々時間もオーバー。

その後は、暗い夜道を「星空ひろば」へ移動。



キャンプファイヤーでは風船わりゲームも楽しんだ

静かに耳を澄ませ、秋の虫の音を観賞しながら、虫たちも地球の仲間であることや、里山の話、森の恵みの話を聞かせる。「日本は四季があり、豊かな緑に覆われている。このような国は世界でもそう多くはないこと」「森を大切に守っているのは、森を持っている田舎の人ばかりではなく、漁師も海の魚を育てるために森を守り、このことが海の魚を豊かにしていること」などの話をし、自然の大切さ、自然を観察し自然に関心を持つことの意義を伝えた。



天体望遠鏡で中秋の名月を観測

2日目。やはり朝方の冷え込みは予想以上に強かったがこれも体験。みんな元気に朝のラジオ体操でスタート。朝食・後片付けを済ませ、前日集めてきた木の実、木の葉などを使って思い思いのネイチャークラフト工作を行う。はじめは思案顔だった子どもたちも、やがてなかなか柔らかい発想でユニークな作品がつつぎと生まれていった。

昼の「カートンドックとバームクーヘンづくり」には、全員でかかり昼食とする。なかなかの人気アイテムだ。その後は、自分たちの作品紹介や、ピオトープでのザリガニ釣り（駆除作業）に出かけ、盛りだくさんだったプログラムも終了。午後3時に解散、終了とした。

今回初めて試みた「宿泊型イベント」であったが、怪我もなく、大きなトラブルもなく終えられ、子どもたちも常に、にこ行動してくれていたことが、今後につながる最大の成果だったように思っている。

スタッフのみなさんお疲れさまでした。



ピオトープでのザリガニ釣り